

2026 年 8 月 18 日

各 位

一般社団法人 全国労働金庫協会

全国 13 労働金庫の 2025 年度決算概況について

全国 13 労働金庫の 2025 年度（令和 7 年度）決算概況をとりまとめましたので、下記のとおりお知らせいたします（以下の計数は特に断りのない限り、全国 13 労働金庫の合計値・平均値です）。

記

概要

2025 年度の当期純利益は前年度比 15 億円（5.32%）増加して 311 億円となりました（以下、増減は前年度または前年度末との比較）。

預金（譲渡性預金を含む。以下同じ。）は 461 億円（0.20%）増加して 23 兆 621 億円、貸出金は 3,675 億円（2.30%）増加して 16 兆 3,118 億円となりました。

自己資本比率は 0.15 ポイント低下して 10.55%となりました。

（注 1） 会計年度：2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日、計数は単体ベースのものです。

（注 2） 本文中の各表は添付資料をご参照ください。

1. 損益の状況 （表 1）

資金運用収益は、貸出金利息、預け金利息、有価証券利息配当金などの増加により 401 億円（15.77%）増加となりました。資金調達費用は、預金利息（譲渡性預金利息を含む。）の増加などにより 295 億円（184.32%）増加となりました。

役務取引等収益は融資関連手数料の増加などにより 10 億円（4.43%）増加となりました。役務取引等費用は団体信用生命保険の保険料などの増加により 32 億円（6.16%）増加となりました。

その他業務収益は国債等債券売却益の増加などにより 25 億円（17.92%）増加となりました。その他業務費用は国債等債券売却損の増加などにより 142 億円（75.40%）増加となりました。

経費は、基本給のベースアップ等による人件費の増加及び労働金庫業態の共同オンライン・システムに係る運営費用の増加などにより、44 億円（2.67%）増加となりました。

業務純益は 82 億円（22.40%）減少して 286 億円となりました。

2. 預金の状況（表 2）

預金残高は 461 億円（0.20%）増加して 23 兆 621 億円となりました。

流動性預金は 154 億円（0.17%）減少して 8 兆 8,916 億円、定期性預金（譲渡性預金を含む）は 615 億円（0.43%）増加して 14 兆 1,704 億円となりました。

3. 貸出金の状況（表 2 及び表 4）

貸出金残高は 3,675 億円（2.30%）増加して 16 兆 3,118 億円となりました。

預貸率（期末）は 1.46 ポイント上昇して 70.73%となりました。

4. 労働金庫法及び金融再生法に基づく開示債権の状況（表 3）

2026 年 3 月末における労働金庫法及び金融再生法に基づく破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、要管理債権（三月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権の計）の合計額（貸出金以外の与信も対象）は 63 億円（6.61%）増加して 1,030 億円となりました。

総与信残高に占める割合は 0.02 ポイント上昇して 0.63%となりました。

5. 主要利回等（表 4）

貸出金利回は 0.17 ポイント上昇して 1.36%、預金利回は 0.13 ポイント上昇して 0.19%となりました。

預金貸出金利鞘（貸出金利回－（預金利回＋経費率））は 0.02 ポイント拡大して 0.43%となりました。

総資金利鞘（資金運用利回－資金調達原価率）は 0.02 ポイント拡大して 0.28%となりました。

以上

本件に関するお問い合わせ先

一般社団法人 全国労働金庫協会 経営管理部
電 話 0 3 - 3 2 9 5 - 0 7 1 8

【添付資料】全国 13 労働金庫の 2025 年度決算概況表

- * 本リリースは財政研究会金融庁分室、厚生労働記者会、日本銀行金融記者クラブへ資料配布しております。
- * 本件は全国労働金庫協会ウェブサイト (<https://all.rokin.or.jp/>) に掲載しております。